

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



書く力を高める支援



1 字をうまく書けない子どもの困り感

- ・平仮名が鏡文字になる。漢字の偏と旁が逆になる。「く」と「へ」、「シ」と「ツ」等を間違えて書く。
- ・「先生が言いました」「先生が行きました」など、同じ音の漢字を間違える。
- ・文字をバランスよく書いたり、ノートの枠内に書いたりすることが難しい。
- ・板書をノートに書き写すのに時間がかかる。書き飛ばしてしまう。
- ・鉛筆の持ち方や動かし方がぎこちない。



2 つまづきの要因（情報処理機能に未発達な部分があるため）

- ・注意して見る、文字の形の違いを正確に捉えることが苦手（文字の形の識別の困難）
- ・文字の形を正確に記憶することが苦手（視覚的記憶力の弱さ→文字の形を細部まで覚えられない）
- ・文字の表す音と文字の形を結び付けて記憶することが困難（聴覚的記憶力の弱さ）
- ・音の聞き分けが苦手（聴覚的弁別・選別） 「らくだ」→「だくだ」「ライオン」→「ダイオン」
- ・目と手の協調した動作が苦手（空間認知が弱い）
- ・文字を思い出して書くことが苦手（形の記憶力に課題がある）
- ・指の力の入れ加減がうまくできず、運筆にぎこちなさがある（手先の不器用さも影響する）

3 平仮名と漢字の書字発達段階

- (1) ロゴ文字の段階～1文字ずつ読めないが、単語として読み書きができる文字がある。（自分の名前を読み書きできるが、1文字ずつはできない）
- (2) 平仮名单語段階～46文字の平仮名单語を書くことができる。
- (3) 特殊音節単語の段階～特殊音節を含む平仮名单語を書くことができる。
- (4) 基礎的漢字の段階～具体的な意味をもち、事物や操作に関係する基礎的漢字を書くことができる。
- (5) 漢字の拡張段階～部首を含む学習漢字を読み書きできる。



4 「書く力」を高める支援

- (1) 簡単な形を見分ける学習を取り入れる。
 - ・形に重点をおいて、「頭」はお豆マメさんにイチノメハと覚える。
 - ・物の見え方をよくするために「ビジョントレーニング」を行う。（通級指導教室との連携）
- (2) 文字を思い出せるように、平仮名文字カード等を準備し、いつでも見て確かめられるようにする。
- (3) 書き写すことが苦手な子どもには、書き写す量を加減したり、学習プリントなどを準備したりする。
 - ・ポイントになることだけを書き写すように指示する。 ・手本を手元において書かせる。
- (4) 付加的な情報を伝え、記憶する際の手助けをする
 - ・漢字の成り立ちを視覚的に伝える。・手先だけでなく、空書きなど腕全体を使って書字の学習を行う。
 - ・子どもの得意な記憶術を活用する。
「休」→人が木で休む（言葉で意味付ける） 人+木=休（視覚的に示して価値付ける）
- (5) 要素を言語化しながら書く。
 - ・「あ」→いち、に、さん ・「い」→たて、たて ・「親」→「木にたってみるのがおや」
- (6) 運筆等にぎこちなさがある時には、筆記用具に配慮する。
 - ・鉛筆は芯の濃い、使いやすいものや大きめの消しゴムを用意する。
 - ・ノートは本人が無理なく書けるように、マス目の大きいものや罫線の引いてあるものを準備する。
- (7) 多感覚をフルに活用する。
 - ・文字を構成する線や点のパーツ（パズル・厚紙）を組み合わせて完成させる。
 - ・粘土や紐状の物（紐、針金、毛糸）を使って立体的に文字を作る。

